

■第1期総合戦略期間における各年度ごとの成果目標（KPI）の達成状況（見込み）

戦略体系	H27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
	達成指標数	達成指標数	達成指標数	達成指標数	達成見込
1. 産業力の強化と伊豆市ブランドの確立 “しごと”	3/11	4/11	4/11 (4/11)	3/11 (3/11)	3/11 (3/11)
2. 笑顔あふれる子育てタウンの創生 “ひと”	6/9	5/9 (6/9)	6/9 (7/9)	5/9 (7/9)	5/9 (7/9)
3. コンパクトタウン&ネットワークの推進 “まち”	4/12	4/12	4/12 (5/12)	5/12 (5/12)	7/12 (7/12)
達成指標 合計	13/32	13/32 (14/32)	14/32 (16/32)	13/32 (15/32)	15/32 (17/32)

※（ ）内は、上方修正前の当初目標達成数

■第1期総合戦略における成果指標（KPI）の総括

第1期総合戦略における戦略体系ごとのKPI達成見込みの状況としては、以下のとおりとなっている。

1. 産業力の強化と伊豆市ブランドの確立…11指標のうち3指標達成見込み
2. 笑顔あふれる子育てタウンの創生…9指標のうち5指標達成見込み
3. コンパクトタウン&ネットワークの推進…12指標のうち7指標達成見込み

平成28年度より毎年実績評価を実施し、都度指標の見直し・上方修正を行ってきたことから現状では、全指標の約半分にあたる15指標を達成する見込み。なお、当初設定した目標数値でみると全指標の約53%にあたる17指標を達成する見込みとなっている。  
“ひと”の指標である「笑顔あふれる子育てタウンの創生」の達成見込みが最も高く、“しごと”にあたる「産業力の強化と伊豆市ブランドの確立」の達成見込みが最も低いことから、人口減少に向けたソフト事業への取組みを継続するとともに、“しごと”の部分強化が必要があるが、大きな企業の誘致などは難しいため、総合産業である観光業の稼ぐ力を引き続き強化していく。

■H30（4年目）実績評価

※目標値を既に達成…◎ 目標値の80%を超える…○ 目標値の80%に満たない…△、（ ）内は、上方修正前の当初目標値及び達成状況

戦略体系	プロジェクト名	指標	基準値	最終目標値 (当初目標値)	H30実績	H30 評価	H30取組状況・今後の展望
地域の特性を活かして「しごと」を生み出すまち  (産業力の強化と伊豆市ブランドの確立)	1. 観光ブランド力創生プロジェクト	年間観光交流客数 (万人)	342	450	354	△	<H30取組状況> ○19年ぶり3回目の開催となった静岡デスティネーションキャンペーンや伊豆市インバウンドプロジェクトチームにより、台湾へのエージェント訪問や台湾地下鉄の駅ナカ広告掲載を行うなど、国内外に対し、積極的なプロモーションを行ってきたが、観光交流客数や外国人宿泊客数の大きな伸びにはつながらなかった。 ○観光消費額については、一度目標値を達成したが、外国人の消費喚起を促すために、キャッシュレス化に向けての普及啓発や経済産業省のモデル事業の採択による支援メニューの整備を進めた。  <今後の展望> ○Wi-Fi整備については、修善寺温泉、修善寺駅、土肥海水浴場周辺など公衆無線LANの整備が進む中で、情報の利便性を更に高めるための取組みとして、SIMカードの販売サービスを含めて検討していく。 ○多言語化看板については、市内観光施設における設置が概ね完了したことから、今後はジオサイトの看板整備を進めていく。 ※観光施設等看板：日本語、中国語(繁体字・簡体字)、英語、韓国語 ※ジオサイト看板：日本語、英語
		観光客一人当たりの観光消費額 (円/年)	15,802	18,300 (16,800)	17,602	◎	
		年間外国人宿泊客数 (人)	12,700	112,700	41,269	△	
		年間スポーツ交流人口 (人)	78,551	100,000	84,605	△	
		オリンピック事前合宿の誘致件数 (件/延べ)	-	10	6	△	
	2. “森と農” 活力創造プロジェクト	市内新規就農者数 (人/延べ)	-	5	3	△	<H30取組状況> ○新規就農者については、1名が移住相談から市内へ新規就農(水稲)に繋がった。また現在、地域おこし協力隊として3名が農業に携わっている。(わさび:2名、しいたけ:1名) ※他1名が鹿革加工に従事 ○林業就業者については、地元の若者1名が市内林業事業体(田方森林組合)に就業した。  <今後の展望> ○現在の農地取得時における下限面積の緩和(2反分)を進め、空き家と農地取得の下限面積引き下げをセットにした支援制度の検討を進めていく。 ○特別栽培米の栽培品種がコシヒカリに限定され、栽培時期が集中している現状があるため、異なる品種の特別栽培米への登録を目指すことで、更なる生産の拡大と付加価値づけを図っていく。
		市内林業新規就業者数 (人/延べ)	-	14 (8)	13	◎	
	3. 商品価値・販売力向上プロジェクト	催事出店者数 (件/年) 【件/延べ】	-	20 【延べ100】	11 【延べ33】	△	<H30取組状況> ○催事出展補助制度を活用した取組み以外にも、美しい伊豆創造センターや観光協会と連携し、5つの商談会等への出展を実現したが、目標値には及ばなかった。(静岡DC全国宣伝販売促進会、浅草まるごとにつぼん、ふじのくに静岡観光大商談会in東京、in名古屋、in大阪)  <今後の展望> ○産業振興協議会による市内産品の販路拡大に向けた新たな取り組みとして、インターネットショッピングの立ち上げを進めていく。
		企業誘致件数 (件/延べ) 及び従業員数 (増加人数)	件数 人数	- -	3 45	1 1	
	4. 働く場の確保と雇用マッチングプロジェクト	空き店舗解消数 (件/年) 【件/延べ】	-	3 【延べ15】	2 【延べ10】	△	<H30取組状況> ○企業誘致は難しいものの創業者支援補助制度の活用により、5件の家賃補助、1件のリフォーム補助(家賃補助も併用)を実施し、5件の新規創業者を創出するとともに、2件の空き店舗を解消した。  <今後の展望> ○空き公共施設を活用した企業誘致用施設を核に、IT企業等のサテライトオフィスの集積を図るとともに、市内の民間企業が運営する集合型オフィスとの連携を進めることで、空き家・空き店舗を活用したオフィスの誘致に繋げていく。 ○初期段階の創業希望者に向けたアプローチ方法を検討していく。また駅前周辺を中心に空き店舗が増加傾向である現状を加味し、中心市街地の空き店舗等を活用した支援策についても検討していく。
		新規創業者件数 (件/年) 【件/延べ】	-	6 【延べ30】	5 【延べ28】	○	

戦略体系	プロジェクト名	指標	基準値	最終目標値 (当初目標値)	H30実績	H30 評価	H30取組状況・今後の取組	
すべての世代がいきいきと暮らし続けられるまち  (笑顔あふれる子育てタウンの創生)	1. 未来を拓く教育プロジェクト	学校教育の満足度 (%)	80	95 (85)	93.3	○ (◎)	< H30取組状況 > ○外国語指導助手 (ALT) を1日単位で配置することで、授業時間だけでなく休み時間や給食の時間も児童・生徒との交流ができる伊豆市独自の取組を進め、英語や他国の文化に触れる機会を確保した。 ○ICT環境の整備について、土肥小中一貫校をモデル校とし、市内各学校の教師に体験を行ってもらいながら機器の導入を進めた。 ○新中学校については、教育振興審議会において「3中学校を一つに統合するべきである」との方向性が答申として示されたことを受け、教育委員会において「修善寺・中伊豆・天城地区の中学校基本方針」が策定された。	
		学校再編計画に基づく小中一貫校の設置 (校/延べ)	-	1	1	◎	< 今後の展望 > ○リニューアルした学校HPの活用により学校毎の特色を発信するなど、情報発信の強化を図る。 ○土肥小中一貫校での活用実績の検証を踏まえながら、引き続きICT機器の導入を進め、各フロア・各学年に1台ICT機器を設置する。将来的には各クラスに1台ICT機器を設置することを目指す。 ○放課後に子どもたちが安心してバスや親の迎えを待つことができる場所など、放課後児童クラブ以外の子どもの居場所の在り方についても検討を進める。	
	2. みんなで子育て応援プロジェクト	子育て支援サービスの満足度 (%)	66.9	80	70.0	△	< H30取組状況 > ○こども医療費の対象年齢について、高校3年生まで引き上げ、子育て世帯の負担軽減を図った。 ○子育てママスタッフによる情報誌「familyizu」に加え、伊豆市で子育てする魅力を市内外の方に広く発信するため、動画・ポスター・パンフレットを作成しプロモーションを行った。 ○湯ヶ島子育て支援センターを開設。休日開設の要望が多いことから隔週土曜日にも実施し、市外の方も含めて計2,491名 (うち小学生645名) の利用があった。 ○修善寺東こども園・土肥こども園で休日保育を継続して実施。 ○認定こども園あゆのさとで19時までの延長保育を継続して実施。	
		保育園の休日保育、19時までの延長保育 (施設数)	-	4 (2)	3	△ (◎)	< 今後の展望 > ○令和元年10月に子育て世代包括支援センターを開設し、子ども家庭総合支援拠点と一体的に運営することで、妊娠期から子育て期までの切れ目ない支援に向けた相談窓口機能の充実を図る。 ○令和元年10月から国の幼児教育・保育の無償化が開始される中、多子の場合の第1子のカウントの仕方や副食費・主食費の一部負担など市独自の保護者の負担軽減策を実施する。 ○子育て中の親子が集まる場所である生きいきプラザ内にキッズスペースと授乳室の整備を検討する。	
	3. 多世代交流拠点創出プロジェクト	多様な世代が利用できる「まちの居場所」の整備件数 (件/延べ)	-	5 (2)	5	◎	< H30取組状況 > ○高齢者の居場所として、ニュータウン地区に「友笑会館」、修善寺温泉地区に「ののはな」が開設した。現在5箇所の高齢者の居場所が開設されている。 ○ロコトレ教室を市内8箇所で開催。ロコトレ教室終了後には、住民が主体となったロコトレOB会が立ち上がり、市内28箇所で開催されている。	
		お達者度 (65歳から元気に自立して暮らせる期間) (年)	男性	17.13	17.50	18.71	◎	< 今後の展望 > ○更なる高齢者の居場所づくりを進めるとともに、多世代交流の居場所づくりを推進していく。 ○ロコトレOB会を体操だけでなく交流の場に発展することで、地域支援事業における総合事業通所型サービスB (体操などの自主的な通いの場を住民が主体となって提供するサービス) へ位置づけていく。 ○げんきプロジェクト (市の推進する「減塩・運動・禁煙」を3本柱にした健康づくり事業) の発展に向け、今後は地域との連携を行いながら取組みを広げていく。(現在、土肥・小土肥地域づくり協議会と連携し、保健師による健康講座や相談、運動のきっかけづくりを行うロールモデルを構築中)
			女性	20.99	21.50	21.65		
	4. 豊かなくらし移住促進プロジェクト	ワンストップ窓口を通じた移住件数 (件/年) 【件/延べ】	-	20(5) 【延べ100 (20)】	13 【延べ55】	△ (△)	< H30取組状況 > ○窓口への相談は83件あり、13件の移住が成立したが上方修正した目標値には及んでいない。 ○定住補助金については、年間41件140名の活用があり、うち市内定住者が29件105名、市外からの移住者が12件35名であった。賃貸補助は2件4名の申請があった。 ○就業に不安をもつひとり親に移住してもらい、市の基幹産業である観光業とマッチングすることを目的として、ひとり親が市に移住し、観光業に就業した場合に家賃や引越費用などを補助する制度を構築した。 ○ふるさと納税について、掲載サイトを1社から3社に増やしたことにより寄附件数、寄附金額がともに増加した。	
		ふるさと納税による寄附件数 (件/年) 及び金額 (万円/年)	件数	37	5,000 (200)	2,256	◎	< 今後の展望 > ○移住HPの再構築を行い、移住希望者が求める情報を見やすく且つ拡充していくことで、移住に関する情報発信を強化する。 ○就業情報、空き家情報といった移住希望者が求める情報ソースの整備を進め、移住件数の増加につなげていく。 ○ひとり親の移住希望者を対象とした移住体験ツアーを開催するなど、ひとり親の移住及び観光業へのマッチングを進めていく。
			金額	325	30,000 (4,000)	39,677		
5. 若者交流プロジェクト	婚姻件数 (件/年) 【件/延べ】	92	112 【延べ560】	76 【延べ361】	△ (△)	< H30取組状況 > ○結婚相談所を年12回開設し、延べ29名の相談があった。また、ジョオを巡りながら親交を深めるふれあいイベントを11月に開催し、男性14名、女性11名の参加があったが婚姻件数の増加にはつながらなかった。  < 今後の展望 > ○令和元年度は、ふれあいイベントの回数を2回に増やすとともに、貸衣装業者と連携しウェディングドレスの展示会を盛り込むなど、内容を工夫することで参加者の増加を目指す。		

戦略体系	プロジェクト名	指標	基準値	最終目標値 (当初目標値)	H30実績	H30 評価	H30取組状況・今後の取組
自然環境と調和した 持続可能なまち (コンパクトタウン & ネットワークの推 進)	1. コンパクトタウン環境整備プロジェクト	都市計画見直しによる鉄道駅から約1km圏内への住宅立地件数(件/延べ)	-	20	29	◎	< H30取組状況 > ○鉄道駅から1km圏内への住宅立地件数が延べ29件となり、都市計画の見直しの効果が表れ始めている。
		歩行者空間整備箇所数(箇所/延べ)	-	2	1	△	< 今後の展望 > ○歩行者空間創出整備計画に基づき、優先順位の検討や事業の進捗管理を継続する。
	2. 邑のにぎわい創生プロジェクト	地域振興拠点(小さな拠点)の整備(箇所/延べ)	-	3	2	△	< H30取組状況 > ○湯ヶ島地区における地域の賑わい・交流拠点として天城湯ヶ島市民活動センター(旧湯ヶ島小学校)に図書館・井上靖資料室・あまじお・会議室等を整備した。 ○道の駅「伊豆月ヶ瀬」のオープンに向け、工事を進めるとともに、名称公募・決定、指定管理者との調整を進めた。 ○大東地域づくり協議会が設立し、目標値である7団体となった。また、2地域において、準備会設立に向けた動きが出ている。
		地域づくり協議会の設立件数(団体数)	2	7	7	◎	< 今後の展望 > ○各地域の拠点における賑わい創出・多世代交流に向け、地域づくり協議会や各地域団体による事業への支援やフォローアップを継続する。 ○各地域づくり協議会の活動内容などを積極的にPRし、市民への認知度向上を図るとともに、団体間における活動内容等の情報共有の場を設けることにより、各団体の活動の幅を広げていく。
	3. 安心快適ネットワーク創生プロジェクト	いきいきパス(高齢者バス利用助成制度)利用者数(人/年)	206	300	253	△	< H30取組状況 > ○いきいきパスの利用促進に向け、区長会や敬老会・老人会等における制度の説明や事業者と連携したチラシ等による周知・PRを行ったが目標値には及ばなかった。 ○利用者の利便性向上に向け、土肥港フェリー待合室にデジタルサイネージの時刻表及び案内看板を設置した。 ○バス利用者へのわかりやすさを向上させるため、路線バスへの方面別ナンバリングを実施した。
		バス停及びバス待ちスペースの整備(箇所/延べ)	-	5	3	△	< 今後の展望 > ○路線バスへの方面別ナンバリングの周知・PRを継続するとともに、交通事業者と連携したデジタルサイネージの設置など、利用者にわかりやすく、利用しやすい環境整備を進める。
	4. 地域防災力強化プロジェクト	防災フリーメール登録者数(件/延べ)	3,355	5,000	4,812	○	< H30取組状況 > ○防災フリーメールの登録者数増加に向け、各地区の防災訓練や情報伝達確認訓練、各種イベントの際に、登録の呼びかけを行った。 ○女性消防団員の確保に向け、市内こども園・保育園での花火教室の開催やFM ISへの出演、ママフェス(子育てイベント)での活動PRを行った。
		女性消防団員数(人)	-	12	7	△	< 今後の展望 > ○防災フリーメールの登録者増加に向け、各種イベントでの周知・PRを継続するとともに、高齢者にも分かりやすい登録方法の周知を図る。また、情報の一本化を図り、市からの情報は防災フリーメールで発信するとともに、外国語対応も検討していく。 ○松原公園周辺に観光施設と避難施設を兼ねた複合型津波避難施設の整備に向けた取組みを進める。
	5. 空き家・空き地活用プロジェクト	空き家活用による定住件数(件/年)【件/延べ】	-	5【延べ25】	2【延べ9】	△	< H30取組状況 > ○土肥地区の旧土木事務所官舎を活用し、伊豆市への移住を検討している方を対象とした「お試し住宅」(伊豆市での生活体験ができる短期移住)を開始した。 ○各地区からリストアップされた危険性のある空き家の所有者に対し、除去を行うよう助言・指導を行い、2件の危険空き家を除去した。
		危険空き家への対応件数(件/延べ)	-	8(3)	9	◎	○旧狩野幼稚園を改修し、サテライトオフィス誘致用施設として整備した。 ○旧土肥小学校の活用について、地元住民や各種団体の代表者からなる検討協議会を設立し、お試しイベントも行いながら検討・協議を重ね、「旧土肥小学校利活用構想」を策定した。
		公共公益施設の新たな利活用件数(件/延べ)	-	4(3)	4	◎	< 今後の展望 > ○空き家バンクの周知・PRの強化や市内宅建業者との連携により、登録件数の増加を図るとともに、「お試し住宅」も積極的にPRし、移住促進を図る。 ○狩野幼稚園に整備したサテライトオフィス誘致用施設を核に、空き家・空き施設を活用したオフィス誘致を広げていく。
		市が管理する公共施設の延床面積(m <sup>2</sup> )	186,543	150,000	179,545	△	○旧土肥小学校の活用について、策定した構想に基づきながら、地域によるお試し活用や事業者の誘致に向けた仕組みづくりなど、地域・事業者と連携した本格利用に向けた取組みを進める。